

「金目まるごと博物館」エコ・デスク通信

制作 平塚市社会教育課

35-8124

エコミュージアム金目まるごと博物館委員会「平成23年度 総会」を開催
～エコミュージアム推進委員の改選、事業計画などを協議～

5月7日(土)、金目公民館において「平成23年度 総会」が開催されました。この総会には、エコミュージアムの役員、会員等が約60名参加し、昨年度の事業報告及び会計報告を行うとともに、今年度の事業計画、予算などについて協議しました。

なお、今回の総会では、「エコミュージアム金目まるごと博物館」推進委員会の役員の任期満了により、新役員の速やかな選出を確認し、6月の推進委員会で決定しました。

新役員 20名 (任期:平成23年4月1日～平成25年3月31日)

委員長 米村 康信 **副委員長** 柳川 勝正

会計 平井 保二郎 **監査** 渋谷 精一

幹事 鷲尾 昭夫 **幹事** 富樫 正一

幹事 柳川 三郎

中村 正賢 柳川 幸三 佐藤 美智子
見留 壽一 柳川 久子 秋山 博
石丸 熙 添田 吉則 露木 正巳
☆猪俣 俊雄

※このほか、特別推進委員【3名】を含みます。
※☆印は、今年度からの新たな推進委員を表します。



*今年度の主な事業計画(23年度 事業活動計画から抜粋)

- ①「金目へようこそ」のパンフレット作成 地域内外からの訪問者へのガイドマップ
- ②家庭菜園塾の立ち上げ 金目地区の特産である野菜の無農薬栽培を目指し、夏野菜の栽培
- ③金目の自然景観ウォーキング(年4回実施)
- ④金目ブランドの検討(農産物、商品など)
- ⑤PR事業の実施 金目桜まつり、灯ろう流し、収穫祭のほか、各部会での事業など

「エコミュージアム金目まるごと博物館」の活動などを紹介 ～初めての広報紙『エコだより創刊号』を発行～

金目地区において、地域全体を1つの博物館と考え、歴史・文化、自然・景観などに関する地域資源の調査研究、保存、展示・活用に取り組む、「エコミュージアム金目まるごと博物館」事業は、これまでにガイドブックの作成をはじめ、金目を特徴づける人物、風習などを活用したイベントの実施、関係機関との連携協力を行ってきました。

平成23年6月30日、当博物館では、エコミュージアムの概要や各作業部会の活動をより多くの方に知っていただくため、初めての広報紙『金目エコだより』を発行し、金目地域内、市内公民館、市関係機関等に配布しました。

創刊号

発行日 平成23年6月30日
発行部数 エコミュージアム金目まるごと博物館 広報部
連絡先 平塚市立金目公民館 ☎58-0101

金目エコだより

エコミュージアム金目まるごと博物館とは？

委員長 米村 康博

エコミュージアム金目まるごと博物館が発足してから今年で5年目を迎えました。まだ多くの人から「金目まるごと博物館ってどこにあるの?」「どんな建物なの?」「どんなものが展示してあるの?」と、よく聞かれる事があります。広報紙の創刊号の発行に際し、同博物館の理念や活動を紹介します。

エコミュージアムとは、Ecology(生態学)とMuseum(博物館)を組み合わせた造語で「エコミュージアム金目まるごと博物館」は、金目の人々の生活と、金目の自然・文化および社会環境の発展過程を史的に地域住民の学校として研究、調査し保護センター的役割を担って、金目に存在する遺産・遺跡を現地に於いて守り育て、金目地域の発展に寄与する「野外博物館」ということとなります。

さらにもう一歩進んでエコミュージアム金目まるごと博物館は、いかに地域に貢献できる人材を育成し、そしてその人々によって新しい町づくりをするか、即ち、金目の進むべき道を探し求める研究的功能を持った博物館と言えます。

エコミュージアム金目まるごと博物館の構成と事業

エコミュージアム金目まるごと博物館が「地域住民の学校」、「自然と文化の保護センター」、「金目の進むべき道を探し求める研究所」の機能を持って事業活動を進めるために、同博物館は①自然・景観部会、②歴史・文化部会、③産業部会、④情報・イベント部会の4部会から成り、約70余名の会員が、いずれかの部会に属し、それぞれの部会で会員の会員による勉強会を開き、またその実践活動として史跡めぐり、景観めぐり、自然観察会、竹の子まつり等を行っております。

事業活動としては4月の「金目桜まつり」、8月の「金目対ろう流し」(共催)、11月の「金目収穫祭」、3月の「秋山博覧前祭」を開催、また不定期であります。小学校、中学校を対象とした「学習会」または「出前授業」を行っております。

年間事業と4部会の活動とは別に、「地域住民の学校」と言える「可奈比(かなひ)塾」、「竹塾」、「家庭菜園塾」、「自然体験塾」等を開塾し、それぞれの塾生は知識、技術を磨き、そして地域の学芸員になろうと励んでいます。尚23年度予算(収入)は教育委員会からの委託費、会員の会費、会員以外からの賛助会費、出版物の販売収入、繰越金等で約150万円です。

*会員一同、親しまれるエコミュージアム金目まるごと博物館にしたいと努力しております。今後とも金目の皆様のご理解とご協力を宜しくお願い致します。

紫陽花

古代ロマン“塚越古墳公園”オープン!

さる4月27日に開園した「塚越古墳公園」は、当地区 区画整理事業の中で、文化財保護の観点から、極力原形を残して造られた面積1haの近隣公園です。

その中心である塚越古墳は、古墳時代前期(4世紀)に築造された前方後方墳です。その規模は、周溝も含めると5.5mもある県内最大規模の後方墳です。

金目川周辺を治めていた酋長のもので、地域全体を見渡せる位置に築かれております。

この古墳は伊勢原台地、北金目台地、そして大磯丘陵との関係やその勢力圏、また社会構造の変化を知る手掛かりを秘めた夢多き古墳です。所在地 平塚市北金目2丁目15番街区内



金目広場で竹の子まつりを開催

6月12日(日)曇り空でしたが100名近い方々が賑やかに参加されました。金目エコ会員が担当する各コーナーでは、和やかな雰囲気の中、親子で竹製玩具に興じる微笑ましい光景が多数見られました。

コーナーに置かれた紙鉄砲、ブンブンゴマ、竹とんぼ、竹笛、竹馬などで熱心に遊ぶ子供たちの姿がとて印象的でした。

この子供たちの姿を見て感じた事は、“微調整の楽しさ”です。現在、私達をとり囲む身の回りのモノは、ボタンを2〜3回押しさえすれば勝手に動き出し、そこには私たちが調整を要する余地はほとんどありません。ところがこの会場で子供達が手にする玩具は、性能をきちんと発揮させるためには何度も“微調整”が必要なものばかりです。

その“微調整”という作業に一心不乱に取り組む子供たちの姿を見ると、玩具本来の楽しさは、慣わしい筈のこの“微調整”にあるのではないかと感じました。今、甚に溢れるボタンを押せば事足りる玩具には、楽しみが半分しか詰まっていなかったかもしれません。

後半にはジャンケン大会があり、本日お手伝いくださった南足橋の「足柄竹友会」小瀬村 博さんから提供された、竹製のザル、写真立てが賞品として勝者の皆さんに贈られました。

最後に、ボランティアの方々が、かまどで薪を“微調整”しながら炊いてくださった竹の子ご飯を御馳走になり、フィナーレとなりました。

〈本広報紙の愛称募集〉

この度金目エコの広報紙を発行する事になりました。金目エコのPRを中心にエコだよりとして育てたいと思います。年数回の発行を予定しております。皆様に愛され、知名度が上がる様に、愛称を皆様から募集させていただきます。創刊号は既に「金目エコだより」と致しましたが、皆様からの提案を受け、当広報部で選考・決定させて頂きたく考えます。御提案のある方は、愛称の趣旨を添えて金目公民館までご連絡お願い致します。 金目公民館 ☎58-0101

『エコだより創刊号』は、新規に当委員会内に発足した「広報部」のメンバーが作成にあたり、A4サイズ、両面刷りで、900部印刷されました。表面はエコミュージアム金目まるごと博物館の目標や組織体制及び活動内容が紹介され、裏面では金目地域内の地域資源やイベントなどが掲載されています。

今後、『金目エコだより』は年4回の発行を目指して、活動を続ける予定です。このエコ・デスク通信でも紹介していきますので、エコミュージアムの活動に関心をお持ちある方はぜひご覧ください。